

タイトル：水稲直播栽培技術の確立と大規模複合・周年農業への挑戦

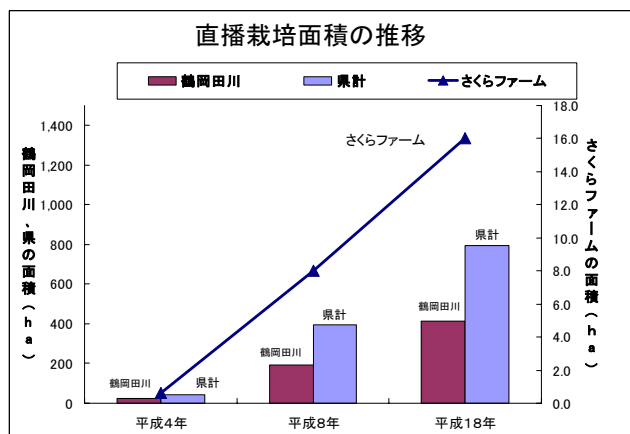
氏名(法人名)：有限会社 馬町さくらファーム

代表取締役 太田 裕徳

1 組織の概要

構成員は4戸9名で28haの大規模水田経営を行っている。昭和53年の機械利用組合設立から、平成4年に導入した水稲直播栽培技術の確立を経て、平成16年に農業生産法人を設立した。周年栽培と直接販売の拡大で、経営の維持・安定を図っている。

現在14haの直播栽培に取り組んでいる。



2 活動内容

(1)水稲直播栽培技術の確立・普及

平成4年に直播栽培に取り組み、試行錯誤のなか関係機関の支援のもと条播直播技術を確立し、栽培を実践している。直播栽培面積は、平成4年には0.6haであったが平成8年には8ha、18年には16haとなった。この間に蓄積された技術が農業技術普及課の「栽培マニュアル」に活かされ、鶴岡地域を拠点に広く活用され直播栽培技術の普及に大きく貢献している。平成18年の鶴岡田川地区の直播取り組み面積は413haで、県内の5割を占め、突出した波及効果が伺われる。

(2)複合・周年農業への挑戦

栽培品目は、水稲、大豆、えだまめ、メロン、軟白ねぎ、青こごみで、さらに、品種・作型を組み合わせ複合・周年農業に取り組んでいる。

水稲春作業の競合を直播栽培で回避し、5haの大規模枝豆栽培で経営強化を図っている。

また、冬季間は、「軟白ねぎ」「青こごみ」を栽培し労力の周年化と冬季間の所得確保を図っている。

(3)販売力の強化

米価下落に対応し、売上増加のため直接販売を実施している。品質の高い米（直播栽培の登熟は高温期を避けじっくりと熟すため）をセールスポイントに、顧客から「おいしい」という評価を得ながら口コミで拡大している。

米売上額の6割を直接販売が占め「飽きさせない」、「法人活動を知ってもらう」という販売戦略で顧客満足を図っている。「米・野菜が当たるアンケート」で顧客ニーズを把握し作付計画に活かし、法人が生産した農産物のプレゼントと「販促チラシ」で新たな注文を拡大している。

特に、メロンは生産量を超える注文に結びつき、全量贈答用として販売している。

(4)地域との連携

法人設立後、地域の小学生、農業高校生、大学生等の研修を積極的に受け入れ、担い手育成にも尽力している。県内外からの視察も快く引き受け直播栽培技術を公表し、その普及に積極的である。

現在、馬町上集落の3分の1の水田を集積しており、地域農業の担い手として認知を高めている。

3 今後の発展方向

生産ほ場の脇に、農産物直売所を併設したミニライスセンターの建設構想を有しており、消費者が生産状況を確認しながら農産物を購入できる仕組みを考えている。消費者と生産者の距離を縮めることで、新鮮で安全でおいしい農産物を求め「たくさんの方が集まる農業」を目指し今後も努力していく。